

# 第二研究会開催のお知らせ

## 1. 日本の馬産業

JRA馬事部 部長 安齊 了 先生

馬 (*Equus caballus*) は200とも言われる様々な品種があり、その用途も競馬や馬術などの競技用、使役用、愛玩用、展示用、食用など幅広い。第二次世界大戦直後のわが国には100万頭の馬が飼育されていたが、その後は急速に減少した。2012年の飼育数は7万5千頭余で、その2/3以上がサラブレッドである。日本における競走馬の生産は97%が北海道で行われ、中央競馬 (JRA) の競走馬となった馬は、全国10箇所の競馬場で年間を通じて主に週末に開催されている競馬に出走する。JRAの主な業務は中央競馬の開催であり、それに係わる様々な業務を行っている。その原資となる馬券は2014年で2兆5千億弱の売り上げがあり、その約75%は払戻金に10%は第1国庫納付金にそれぞれ使われて、残りが運営費に当てられる。国庫納付金は、3/4が畜産振興事業に1/4を社会福祉事業に、それぞれ使うことが定められている。

## 2. 馬の感染症

JRA競走馬総合研究所栃木支所 研究役 辻村行司 先生

家畜伝染病予防法で定められた監視伝染病のうち、馬が対象となる疾病は、家畜伝染病で8疾病、届出伝染病で12疾病が知られる。これらのうち、平成10年以降に日本国内で発生が報告された疾病は、流行性脳炎 (日本脳炎)、馬伝染性貧血、破傷風、馬インフルエンザ、馬鼻肺炎、馬伝染性子宮炎、馬パラチフスの7疾病である。また、監視伝染病には含まれないが、国内で発生が問題となる感染症としては、ゲタウイルス感染症、ロタウイルス感染症などが挙げられる。一方、馬ウイルス性動脈炎は、これまで日本国内で発生はないが、世界各地で発生が認められ、日本への侵入を警戒すべき感染症の一つである。これらの感染症は、馬産業に大きな経済的損失を与えることから、予防法、診断法および治療法の研究が行われ、ワクチンや診断液が開発されてきた。そして、感染症の防圧を成功させるためには、個々の疾病の特徴をよく理解することが必要と考えられる。本講演では演者が研究対象とするウイルス感染症を中心に、馬産業にとって重要な感染症の情報を紹介したい。

## 3. 馬のワクチネーションプログラム

JRA馬事部 防疫課長 松田芳和 先生

馬に使用されている主なワクチンとしては、馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風、馬ゲタウイルス感染症および馬鼻肺炎に対するものがある。今回、競走馬を中心に、これらのワクチネーションプログラムに関して紹介したい。

馬、特に競走馬や乗用馬などの軽種馬群においては、軽種馬防疫協議会 (農林水産省を含めた競走馬や乗用馬等の関係団体で構成された協議会) が定めた予防接種要領に基づき、馬インフルエンザ、日本脳炎および破傷風の3種類のワクチンの接種が推奨されている。具体的には、馬インフルエンザは基礎免疫後に半年に1回の補強接種を実施、日本脳炎は流行期前の5月以降に2回接種、破傷風は基礎免疫後に年1回の補強接種を実施することとなっている。JRAでは、これら3種類に加え、馬ゲタウイルス感染症および馬鼻肺炎の予防接種も実施している。馬ゲタウイルス感染症は、日本脳炎と同様に流行期前の5月以降に接種する必要がある。馬鼻肺炎に関しては、若齢馬における冬季の呼吸器疾患 (発熱) を予防するため、2歳馬 (明け3歳馬) に対して接種している。これまで不活化ワクチンを使用してきたが、今シーズンからは新たに開発された生ワクチンに切り替えたところであり、更なる効果が期待される。

## 4. 今後の研究課題 (質疑応答)

日時: 平成 27 年 2 月 2 日 (月)

15:00 - 17:00

場所: 日本生物科学研究所  
管理棟 会議室 2・3



主催

一般財団法人 日本生物科学研究所

<http://nibs.lin.gr.jp/>